



## マレーシア

受験失敗からマレーシア。  
人生が変わった。

## 八塚 綾乃さん



卒業式の時

2019年3月	初芝富田林高等学校 卒業
2019年11月	マレーシア Taylor's College Intensive English (語学コース)
2020年4月~2023年3月	マレーシア (学士号取得) Taylor's University 観光学部
帰国後	2023年3月 留学エージェントに就職、現在に至る

## 大学全落ちから正規留学という新たな道へ

高校時代から英語が好きで、国内大学に進学し1年間の交換留学をすることを目標にしていました。YouTubeで見る正規留学生には憧れたものの、経済的に余裕のある家庭の話で自分には無縁だと諦めていました。しかし、国内大学の受験は全落ち。浪人する気力もなく絶望していた際、父から正規留学の道を提案されました。その言葉で、自分にも挑戦する資格があるのだと気づき、本格的に留学を志すことに決めました。

## ここしかない!と思った国に出会えた

国選びの際は、以前から興味があった観光学を学べる国を探しました。両親からは金銭面で短大を勧められましたが、どうしても大卒の資格が欲しくて必死にリサーチし、マレーシアという選択肢に出会いました。学費を抑えつつ質の高い教育を受けられ、治安も良い。多民族国家でいろんな文化に触れられる。「ここしかない!」と確信してからは、渡航に向けて独学で英語の勉強に励みました。

## 刺激的で充実した留学生活

学部入学と同時にコロナ禍となり、最後の一年以外はほぼオンライン授業という異例のスタートでした。講義は観光学に専門特化した内容で、自分の興味があることばかりで非常に面白かったです。社会に出てからも活かせる実践的な学びが多く、とてもやりがいを感じました。英語での課題やプレゼンには苦労しましたが、優しい教授陣のサポートもあり、一つも単位を落とさず卒業できました。

また、様々な国から来た多国籍なクラスメイトとの交流も忘れられません。互いの国

の料理を作り合うなど、異文化を肌で感じる経験は本当に刺激的でした。日本との違いに戸惑うこともありましたが、その分視野が広がり、サバイバル能力が身についたと実感しています。英語力だけでなく、一人の人間として大きく成長できた充実した学生生活でした。

## 思わぬ縁で観光業界とは違う世界へ

当初は旅行代理店などの観光系を志望していましたが、最終的には自身もお世話になった留学エージェントに就職しました。在学中に高校生の相談に乗る機会があり、自分の経験を伝えることで相手の役に立てる楽しさを知ったことがきっかけです。元々社長と知り合いで、友達が先に入社していたことも大きな決め手でした。

## 留学きっかけで変わった私の人生

留学を通じて行動力が上がり、未知の環境で一人で飛び込んだ経験が大きな自信になりました。やってみなければ分からないという考えが身につく、興味のあることに挑戦し続けながら楽しく生活しています。自分の経験がこれから留学する人の役に立ち、感謝される機会も多く、仕事に対してもやりがいを感じています。



韓国人のクラスメイトと(右)

## とにかく行動が大切!

留学前は不安も多いと思いますが、英語の間違いを恐れず積極的に話しかけてみてください。現地の方は優しくフレンドリーなので、助けを求めれば案外なんとかなります。勇気を出して飛び込んだ経験は必ず自信に繋がりますし、人生をより豊かにしてくれますよ。皆さんの留学生活が充実したものになるよう、応援しています!



マラッカの水上モスク

## 私の語学勉強法

## 英語勉強は妥協するな

元々日本の大学受験用に英語対策を行っており、高二で英検2級を取得しました。卒業後は半年間の独学を経て、大学付属の語学コースでIELTS対策に励みました。4技能をバランスよく学び、放課後は図書館で友人と課題をしながら会話をしたりして、スピーキング力を磨きました。最終的にIELTS 5.5を取得し入学しましたが、今思えば、より高いスコアを目指してもっと勉強してから入学すれば良かったという後悔も少し残っています。



## オランダ

一つの場所で学び、  
世界へと広がる

### 木村 ころろさん



オランダ滞在中最終日（中央）

2019年3月	山形県立長井高等学校 普通科 卒業
2019年4月～2023年3月	お茶の水女子大学 文教育学部 人文科学科（哲学・倫理学・美術史コース）
2021年9月～2022年6月	〈 <b>業務スーパージャパンドリーム財団奨学金</b> 〉 英国（交換留学） The University of Manchester Faculty of Humanities
2023年9月～2024年8月	〈 <b>JASSO海外留学支援制度（大学院学位取得型）</b> 〉 オランダ（修士号取得） Utrecht University Arts and Society
帰国後	2024年12月 現代アートギャラリーにギャラリーアシスタントとして就職、現在に至る 個人の活動として、インドネシアのアーティストコレクティブとの協働プログラム開催、アーツカウンシル東京・海外派遣プログラムにてブラジル・サンパウロ訪問、アートフェア「Art Collaboration Kyoto」パブリックプログラムのキュレーションなど

### 交換留学から学位取得留学へ

学部時代にイギリス・マンチェスターで1年間の交換留学を経験しました。ディスカッション中心のカリキュラムや、国を超えたネットワーク構築の可能性に惹かれ、また海外で学びたいと思うようになりました。学部では近代美術史をフェミニズムの視点で研究していましたが、徐々に、現代社会が経験する問題についてアートを手がかりに考えたいと思うようになりました。ウィア理論にも興味があったため、現代アートやウィア研究の先駆であり、ディスカッションベースの教育を特徴としていて、かつ多様な国・地域から学生が集まるオランダを選びました。

### 現代アートにまつわるトピックを横断的に研究できる環境

①複数の国をビザなしで移動できるヨーロッパ圏にあり、②英語での履修が可能で、③現代アートやウィア研究が進んでおり、④海外留学生の受け入れに積極的な国として、オランダを選びました。当時は具体的な研究分野を絞っていなかったため、キュレーション・芸術批評・アートマネジメント・制度分析など、領域横断的なカリキュラムを提供するユトレヒト大学を選びました。留学前の準備で最も苦労したのが家探しです。学生寮や賃貸物件を探すことが困難だったため、最終的にホストファミリーを紹介するウェブサイト滞在先を見つけました。

### 教授陣とも学生たちともフラットに

授業構成は、レクチャー1コマとディスカッション1コマで1セットです。レクチャー前には事前に示された課題論文を読み、ディスカッション前には追加の課題論文を読むと同時に、ディスカッションテーマに対する回答を準備しておきます。学生生活では、教授陣とのフラットな関係が印象的でした。上下関係はほとんどなく、多くの教授が日常会話でもメールのやりとりでも対等な態度で関わってくれたので、研究や学生生活で行き詰まることもあっても、気軽に相談できる環境がありました。また、私のコースは2/3程度が留学生で、ヨーロッパはもちろん、アジアや南米からの留学生も複数いました。彼らとの日常的なかかわりの中で、互いに異なる歴史・文化をもつ相手とのコミュニケーション方法を身を持って学ぶことができました。



キャンパス近くの花市場

### 場所よりも、学びたいこと・やりたいことを優先できる心構え

インドネシアでのインターンシップ後、現在は東京の現代アートギャラリーでマネジメントを学びながら、キュレーターとして展覧会企画や海外でのリサーチに取り組んでいます。留学時に多様なロールモデルと出会ったこと、流動化するアート業界の就労状況に対応したコースを履修したことから、柔軟な働き方を選択できました。

### 世界各地に広がるネットワークを生かして

留学を経て、世界各地とのネットワークができました。そのつながりを生かして、卒業後も継続的に海外でのプロジェクトを実施しています。また、留学中に身につけた英語論文読解能力やライティング・スピーキングスキルを生かし、ヨーロッパ圏のキュレーターとの協働プロジェクトにも取り組むことができました。



コースメイトと迎えた新年

### 興味関心からコース選びをスタート

現代アート、特に官民協働の施設運営体制や、小規模のサブプリッシング、メディアやジェンダー、ポストコロニアルの視点とアートの関わりを学ぶ国として、オランダは重要な選択肢になると思います。各大学ごとに多様なコースが用意されているため、自分の興味関心をあらかじめ明確にした上で、のコース選びをおすすめします。

### 私の語学勉強法

#### 英訳脳よりも英語脳を！

特にライティングについて、英語と日本語では文や段落の構造に言語的な違いがあるため、日本語をそのまま英訳した文章ではわかりにくい文章と評価されることが多いです。英訳脳ではなく英語脳を作るために、段落構造や文のリズム、頻出する接続語・修飾語・動詞に注意しながらライティング練習をするのがおすすめです。留学直前期には、Netflixなどを活用したシャドーイングで、耳・口周りのトレーニングをしていました。